

1 日 時

令和6年12月20日（金） 9時00分から11時10分まで

2 出席者

(1) 委員

- ・ 細江 快広 （札幌市芸術文化財団市民交流プラザ事業部 センター事業課長）
- ・ 本田 修 （元国際交流基金文化事業部長）
- ・ 山本 麻由美 （京都芸術センター副館長、京都市文化政策コーディネーター）
- ・ 吉本 光宏 （合同会社文化コモンズ研究所代表、一般社団法人長野県文化振興事業団理事長）
- ・ 若林 朋子 （プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院教員）

(2) 事務局

- ・ 米森 正貴 （市民文化局文化部長）
- ・ 高橋 亮 （市民文化局文化部文化振興課長）
- ・ 柴垣 孝治 （市民文化局文化部文化振興課企画係長）
- ・ 森本 一成 （市民文化局文化部文化振興課企画係）

3 議 題

- (1) 採択事業の状況
- (2) 次年度の札幌市文化芸術創造活動支援事業について
- (3) 次年度の札幌市文化芸術創造活動支援事業等評価検証委員会について

4 議 事

(1) 開会

- ・ 事務局（高橋文化振興課長）の司会進行により、委員全員の出席を確認した。
（以後、委員長による司会進行）

(2) 採択事業の状況

- ・ 事務局から今年度の採択事業の現状について説明をした。

(3) 次年度の札幌市文化芸術創造活動支援事業について

※ 現時点では来年度実施は未確定（予算要求中）であるが、予算が認められた場合すぐに公募準備が必要なため、改善箇所を整理するための協議

- ・ 事務局から資料1に基づき説明を実施。

★ 事業改善に係る主な意見

◆ 伴走支援関係

- 補助事業なので採択事業者の主体性を大切にするため介入を最小限にすることが前提となるが、他都市の事例でももっと関わってほしいという採択事業者がいた。
- 他都市では定期的に専門家との意見交換の場を設けることやSlackやDiscordなどを使って質問の心理的ハードルを下げることをしている事例があるので参考にするのも良いのではないかと。

◆ 報告書・評価関係

- 報告書案も示されているが、この報告書で色々なところが見えてくるので、これを評価に活かしていくべきと思う。
- また、報告書を作成する際にも一方的に報告書を出してくださいと言うのではなく、やり取りをして引き出すということもあって良いと思う。
- セゾン文化財団では対話型評価というものを行っており、質問項目は「事業の成果」「不満と障害」「意図しなかった成果」「学んだ点と今後の活かし方」という4つしかない。示された報告書案でも大体カバーできているが、「意図しなかった成果」という項目を入れるとより良いと思う。
- 示された報告書案には「その他」のところにアーティストからのコメントが記載されているが、これは「アーティストの声」という欄として設けて独立しておいた方が良いと思う。

◆ 採択事業者の公募への事務局の関わり方

- 採択事業者からのアンケートを踏まえて、これまで審査委員として参加していたところを一步引いてオブザーバー参加とする一方で、公平性・適正性を確保するために、ガイドラインを作るということは、現実的な線なのではないかと思う。
- 前もってルールを決めて、それを公表して、これに基づいて実施することが望ましい。審査委員として加わるよりも、ルールが守られているかをオブザーバーとして確認するという建付けは良いと思う。

◆ 他の補助金との併給

- 現在、他の補助金との併給を認めない形になっているが、自走化を求めるのであれば、色々な財源を集めるということは大切なことであるため、併給を可としないと考え方に矛盾が生じると思う。
- 国際交流基金では、文化庁と国際交流基金の両方から補助金を同じ案件で受けることは不可だが、国際交流基金と自治体の助成金や民間の助成金と併せることは奨励されている。
- 財源が同じ札幌市の補助を複数受給することは除外してしかるべきだが、国や北海道など他の財源であれば併給を認めるべきだと思う。

◆ 事業広報

- 事業を頑張ると広報が手薄になりがちであり、そこをサポートすることも必要。事業の公募の周知はもちろんであるが、併せてこの事業の取組を周知することも検討した方が良い。

(4) 次年度の札幌市文化芸術創造活動支援事業等評価検証委員会について

- ・ 事務局から資料2に基づき説明を実施。

★ 主な質問等

- ◆ 令和6年度事業の報告書と委員会はどのように関わるのか
⇒ 令和6年度事業の報告書については、来年度の第一回委員会で案をお示しすることになると思う。
- ◆ 第2回委員会はどのようなイメージなのか
⇒ どこが何をするという仕組みの話ではなく、どのような機能が存在していることが重要なのかを議論するイメージ
- ◆ 市内文化芸術関係者の意見の取り入れ方をどのように考えているのか
⇒ まずは議論の土台になるものを作ることが必要と思うので、市内文化芸術関係者の意見を頂くのは令和8年度になるのではと想像している。

【閉会】